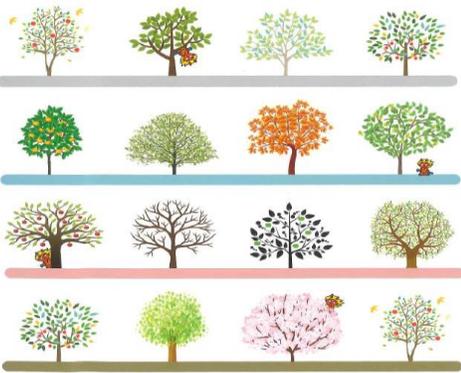


第5次計画（R2～6年度）

茨木っ子プラン ネクスト5.0

一人も見捨てへん教育



茨木市 言語力向上プロジェクト

取組成果 リーフレット



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

つげたい力

- ・興味関心を広げ、自ら本を選び、読み進める力
- ・目的に応じて必要な情報を読み取る力
- ・読み取ったことをまとめ、自分の考えを整理し、発信できる力

取組みの概要・ポイント

- つげたい力を育むための並行読書を活用した授業づくり
- 教科等横断的な学習における児童が主体的に学びたくなる、魅力的な言語活動の設定
- 学びに関連する様々な本と出合える環境設定

学校図書館がつなぐ、教科等横断的な学習

学習者主体の学びをめざし、各教科のつげたい力を明確にした言語活動を設定した。教科等横断的な学習で、子どもたちが相手意識や目的意識などの学びの必然性を感じられるようにした。

1年【国語・体育】

「〇〇をよんできて」

おおきなかぶのかぶを抜くシーンを、様々な動物になりきって表現遊びに取り組む。

2年【国語・生活・音楽】

「生き物と友だちになろう」

動物や虫などの生きものについて調べ、すごいところをまとめたり、クイズや歌をつくったりして学習に取り組む。

3年【国語・社会】

「聞き取り名人になって図書館をアピールしよう」

図書館見学を経て、すごいところをアピールするために、聞きたいことを落とさずに聞く方法を学ぶ。

4年【理科・国語】

「これがわたしのイチオシ動物」

動物のからだのつくりをきっかけに動物のすごいところを調べ、集めた情報を分類したり比較したりしながらイチオシ図鑑をつくる。

5年【社会・国語】

「地域のみりょくを伝えよう」

日本の食料生産の課題を解決するために、自分が選んだ都道府県の魅力を食を中心に調べてまとめ、4年生に紹介する。

6年【総合的な学習の時間・国語】

「平和の実現に向けて」

修学旅行（広島）に向けた平和学習や現地で学んだことをもとに、自分でテーマを設定し、平和実現に向けた提言書を作成する。



学校図書館を活用した実践体系表はこちら

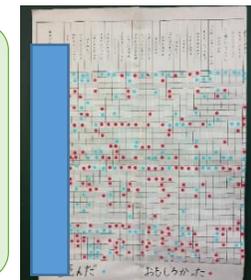
様々な本に出合える環境の設定

子どもたちの普段の生活で読むことが少ない本と出合えるしかけを行う。自分の興味関心の外側にある本にも親しむことができるように取組みを進める。

●子どもたちが読みたくなる環境づくり

【並行読書マトリックス】

自分が読んだ本の欄にシールを貼る。読書量の可視化や友だちがおもしろいと思った本を知ることができる。また、単元の言語活動でも自分の考えをはっきりさせたり伝えたりする交流相手を選ぶために使用できる。該当単元が始める前からマトリックス表と並行読書材を廊下や教室内に配架し、読書環境を整える。



【廊下を使った特別展示】

「児童の学びの成果と使用した本」や「教科書教材の作者の著書」「学習内容に関連した本」などテーマに合わせた本を図書室前や各学年の廊下に展示し、視覚的に読みたくなる環境をつくる。児童の作品を通して、学年を超えたつながりをつくることにもつながった。



●図書委員会と連携したとりくみ

【読書福袋】

新聞紙で包んだ本に一言メッセージをつけて並べる。



【マイ本棚】

自分が決めたテーマで本棚を作り、本を並べる。



取組みを通しての子どもの変容

- ・学校図書館活用に関わるアンケート数値の向上。（右記表を参照）
- ・茨木市グローイングチェック、正答率の向上と無解答率の減少。
（正答率 R5:66%→R6:74% 無解答率 R5:9%→R6:1%）
- ・並行読書材の中から、自分が好きな本や発見したことなどを友だちや教員に伝える姿が多くみられるようになった。

	R4	R5	R6
本を読むことが好き。	75%	80%	80%
学校図書館での学習や、本や資料を使って調べることは楽しい。	70%	78%	83%
図書館資料やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている。	48%	71%	74%

つきたい力

- ・自ら課題を設定して取り組む力
- ・正しく情報を活用する力
- ・自分の考えをまとめ、伝える力

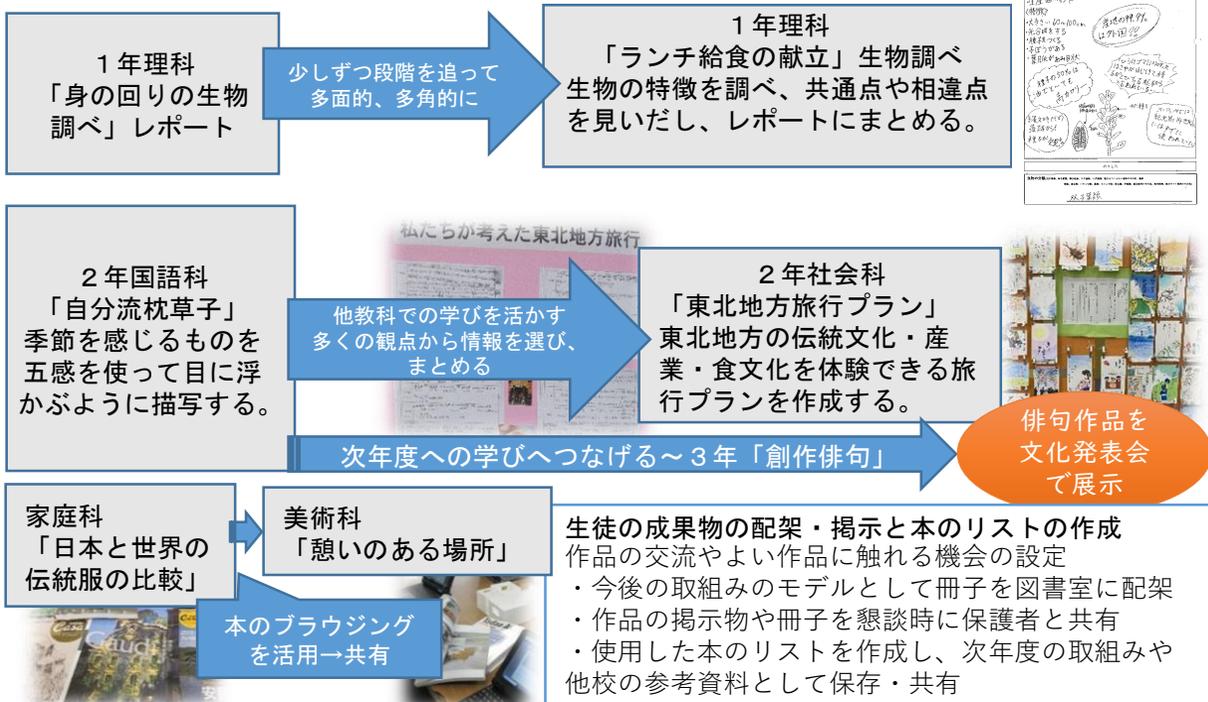
取組みの概要・ポイント

- ・今までの学力向上の取組みを土台にした、図書とICTを活用した情報活用能力を育てる授業
- ・図書委員会の活動に加えて、特集・展示を通して、「読書の芽」を育て、読書活動を推進する。

思考力・表現力の育成につながる読解力の向上～情報活用能力を育てる学校図書館～

「I.T.O」 INPUT (認識) → THINK (思考) → OUTPUT (表現) を意識した授業づくり

学校図書館を活用した言語活動の充実→教科としてつきたい力へ



図書委員会の活動ー「人を通して本を知る」

- ・朝読寸劇・ブックトーク・平和読書・移動図書館
 - ・文化発表会での展示
- 前半期の取組みをまとめて展示し、全校生徒に紹介。
推薦文と本をセットにして紹介。
学習内容に関する本の紹介。



お気に入りの一冊
をあなたへ

特集・展示

生徒の心に「たねをまく」
「たがやす」



学習内容や時季・出来事に合わせた本の紹介



学び方
指導体系表

使用した本
のリスト



取組みを通しての子どもの変容

図書資料を活用し、言葉や内容、表現にこだわり、よりよいものに仕上げようと粘り強く取り組む生徒の姿が見られた。また、新鮮な発見があり、生徒の思考を促すことにつながっていると感じる。

アンケート項目	4月	7月	12月
図書館資料やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている。	33.4%	40.5%	42.0%
学校図書館での学習や、本や資料を使って調べることは楽しい。	44.5%	49.9%	54.0%

つきたい力

- ・みずからの思いや願いを言語化し、相手を意識して伝えることができる力。
- ・みずから問いを持ち、その解決に向けて仲間と話し合い、解決しようとする力。

取組みの概要・ポイント

- ・つきたい力(ゴール)を明確にした授業づくり
- ・ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進

茨木市HP「国語の授業づくりモデル小学校の取組みについて」



具体的な取組みの内容 「学ぶ側から授業を見る」ことから始まる単元づくり

つきたい力(ゴール)を明確にした授業づくり

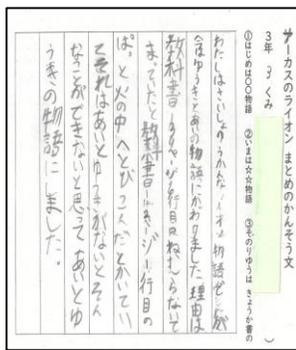
【単元でつきたい力をつける】

・国語の指導事項を確認し、何のために学習をするのか必要感をもって学習に取り組めるようにする。単元開きとともに、子どもたちとつきたい力を共有し、どのような姿がゴールなのかを明確にする。



【自分の考えの変容を文章化する】

・単元終末で「まとめの感想文」として書く。教材に出会ったときの感想と、友だちと読みを深めた感想を「まとめ」として書き、自分の読みの変容を確認する。その際、叙述に基づいた根拠を示して書く。



「学び方」「学びの表現」を選択

【個に応じた学び方で主体的に取り組める】

- ・学び方を一人、ペア、グループなど、自分で選択する。
- ・言語活動の表現方法を選択する。

一人で



ペアで



グループで



ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」

【自分の考えを形成する】

・「初発の感想」を「感想文」として書くのではなく、焦点化した投げかけにより、それぞれに明確な回答ができるようにする。① 読んで一言「〇〇物語」② 漢字一文字で表す③ 印象に残った場面など、ICTで共有する。そこから子どもたち同士が「なんでかな？」など、感じ方の違いを楽しむ様子があった。



【友だちと協働的に取り組む】

・「学校のみんにドリンクを売ろう」という課題設定のもと、「具体的にどのような人に売るのが」「どのような効用があるのか」など、目的や場面・状況をはっきりさせて、各班で構成等も考えた。さらに自分たちでコマーシャルを撮影し、その動画を視聴しながら、互いに評価しながらメモをとるなど、学びにつなげることができた。



取組みを通しての子どもの変容

子どもたちの最後まであきらめずに書こうとしている姿が見られた。全国学力・学習状況調査(記述問題)無解答率が9.3%(2023年度)から5.8%(2024年度)に減少した。言語活動を通して、つきたい力をつけ、国語の授業が好きだ。ていくこと、そして「子どもたちが前のめりになって学ぼうとする姿がみられる授業」をおこなうことをめざし、国語の授業で学んだことを、研修を進めることで、子どもたちの目標が明確になり、自己効力感につながっていった。

アンケート項目	4月	7月末	12月末
国語の授業が好きだ。	76%	81%	85.7%
国語の授業で学んだことを、他の教科の学習でもいかしている。	79%	86%	92.4%

つきたい力

取組みの概要・ポイント

茨木っ子力
(学び力・自分力・ゆめ力・つながり力)

- ・児童の感情にフォーカスした授業づくり(ギミックブラッシュアップシートの活用)
- ・嬉しい(なるほど!わかった!できた!と感じる)授業づくり

具体的な取組みの内容 ギミックブラッシュアップシートを活用した授業改善

ギミックについて

教育活動の中で、なんらかの非認知能力を引き出すような活動や仕掛け、はたらかかけをギミックと呼んでいます。

そのギミックによって、どんな非認知能力に刺激を与えたいのか？

ねらい

空間
教具
活動

感情
の
動き

ギミックを空間、教具、活動のどこに入れるのか？

ギミックによって、感情が動いているか？

ギミックブラッシュアップシート			
教科	算数	授業者	〇〇
単元	のこりはいくつ、ちがいはいくつ	学年など	1年
学期のチャレンジ	自分の考えを持ちながら授業に参加できるように、時間の保障や場の設定を工夫する		
本時の目標	ひきざんの計算のコツを知り、計算になれる。		
導入	<p>ひきざんについて、振り返る。 ※残りを求める引き算とちがいをめぐる引き算のちがいについて、フロッグやイラストを使って、表裏的にとらえさせる。</p> <p>※前時のノートで思い出させる。</p>	<p>ねらう茨木っ子力 楽しみ どうだろう？ なるほど わくわく</p> <p>■自分力 ■つながり力 ■学び力 ■ゆめ力</p>	<p>感情イメージ 左より一人ですくを取り組んだり、悪態する場面 右より問題を解決したり、チャレンジしたり気持ちが高揚する場面</p>
展開	<p>ひきざんカードを順番に並べる。 ※並べ方(完成図)を黒板に提示 ※並べてきた児童は、またの児童が並ぶように促す</p> <p>※並べた引き算カードの答えをみて、きまりをさがそう</p> <p>※一人で考える時間を確保する。 ※自分の考えを一つは持っているよう机周りを指導する。</p>	<p>■自分力 ■つながり力 ■学び力 ■ゆめ力</p>	<p>一人ですく</p>
交流	<p>自分が見つけたことをへらに伝えよう。</p>	<p>■自分力 ■つながり力 ■学び力 ■ゆめ力</p>	<p>見つけたことを伝え合う</p>
まとめ	<p>計算ゲームをする。 ※見つけたきまりを伝え、早く解答できることに気付かせる</p>	<p>■自分力 ■つながり力 ■学び力 ■ゆめ力</p>	<p>ゲームを通して学びを深める</p>
ふりかえり	<p>できるよになったことをふりかえり</p>	<p>■自分力 ■つながり力 ■学び力 ■ゆめ力</p>	



具体物でイメージをつかむ



一人で考える



見つけたことを伝え合う



ゲームを通して学びを深める

『楽しい授業』を目指して・・・
『楽しい』という漢字は、心がAの状態→Bの状態に動くことを意味している。つまり、授業を通して心がAの状態からBの状態に動くような授業が本校の目指す『楽しい授業』と考えている。言い換えれば、授業を通してなるほど!分かった!できた!となる授業である。

感情の動きにフォーカスした授業づくりのために、『ギミックブラッシュアップシート』を使って授業を行い、ふりかえる取り組みを定期的に行っている。
左記のシート作成者の授業イメージ

導入：具体物を使って既習事項の残りはいくつ？と、ちがいはいくつ？の引き算のちがいについて確認する。復習する活動を通して児童の心は、なるほど、たしかそうだったねと動いていく。
ねらう茨木っ子力は『学び力：ふりかえり力』になる。

展開：課題について児童に問う展開時では、どうしてだろう？難しいなあと児童の感情は動く。ねらう茨木っ子力は『ゆめ力：チャレンジ』になる。

自力解決：解決に向けて、一人で考える時間をしっかり確保し粘り強く考えることで児童の思考は少しずつ、なるほど、できたに動いていく。
ねらう茨木っ子力は『ゆめ力：レジリエンス』になる。

交流：自分が見つけたことを伝え合う活動を通して、なるほど、やっぱり、同じだねと児童の感情は動いていく。
ねらう茨木っ子力は『つながり力：リスペクト、コミュニケーション』『自分力：自信』になる。

まとめ：活用問題を通して、学んだことを使って解決していくことで、やったね、できた、なるほどと感情が動いていく。
ねらう茨木っ子力は『学び力：ふりかえり力』『自分力：自信』になる。

取組みを通しての子どもの変容

活動の中でつきたい力・育まれる茨木っ子力を授業者がイメージしギミックを考えていくことで、粘り強く課題に取り組む児童や自分の考えをもって交流活動に取り組む児童、友達の考えを受け入れる児童など、主体的に学びに向かおうとする姿が多くみられるようになった。また、授業者においても児童の学習に向かう姿勢や主体的に学ぼうとする態度を見とりながら、児童の茨木っ子力が高まりにつながる言葉かけを意識的に行うようになった。

つきたい力

非認知能力(しのっこ力)の育成

取組みの概要・ポイント

- しのっこタイム導入
- 生徒の感情を意識した授業づくり



非認知能力の育成を意識した取組み

①行動指標づくり

教職員間で行動レベルを整理し、生徒の実態に合わせたものに共有

②しのっこタイムの導入

朝読書の時間をしのっこタイムとし、未来手帳を活用した取組みを実施
昨日の振り返りを書き、今日意識するしのっこ力のシールを貼っていく

③行事の事前事後ワークシート

どんなしのっこ力を付けたいか意識して、行事に取組み、事後振り返りを行う。

非認知能力	行動レベル	育成方法
自己管理能力	自分の生活リズムを整えることができる。	朝読書の時間を確保し、毎日朝の習慣を身につける。
コミュニケーション能力	友達と協力して課題をこなすことができる。	グループワークで役割分担を行い、互いにサポートし合う。
学習能力	授業中に積極的に発言し、理解を深められる。	先生の話をしっかりと聞き、疑問点を積極的に質問する。
感情管理能力	授業中に集中し、感情をコントロールできる。	朝読書の時間を活用し、感情を落ち着かせる習慣を身につける。
社会性	学校行事や委員会活動で役割を果たすことができる。	委員会活動や学校行事で責任感をもち、協力する。
健康	毎日朝読書を行い、健康な生活を送ることができる。	朝読書の習慣を身につけ、毎朝の習慣にする。



日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
4月	朝読書 10分								
5月	朝読書 10分								
6月	朝読書 10分								
7月	朝読書 10分								
8月	朝読書 10分								
9月	朝読書 10分								
10月	朝読書 10分								
11月	朝読書 10分								
12月	朝読書 10分								

④生徒の感情を意識した授業づくり

- ・教科ごとに重点しのっこ力を設定し、授業者が意識して“しかけ”のある授業展開
- ・ギミックブラッシュアップシートを活用し、生徒が主体となった活動や授業の山場を設定
- ・授業でどんなしのっこ力がついたのか意識することができるよう振り返りシートを活用

⑤生徒会の取組み

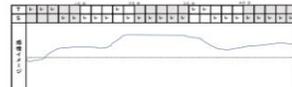
- ・毎月の生活目標を設定し、全校集会で周知
- ・各種委員会が学期ごとの振り返りを実施



⑥小中連携

校区の小学校と連携し、東雲中学校、各小学校で育てたい力を共有し、非認知能力の育成を実施

教科	重点しのっこ力	授業展開
国語	読解力	読解力向上のための読書活動
算数	計算力	計算力向上のための計算ドリル
理科	観察力	観察力向上のための観察活動
社会	コミュニケーション力	コミュニケーション力向上のためのグループワーク
体育	運動能力	運動能力向上のための体育授業
音楽	表現力	表現力向上のための音楽授業
美術	創造力	創造力向上のための美術授業
英語	リスニング力	リスニング力向上のための英語授業
外国語	読解力	読解力向上のための外国語授業
総合	問題解決力	問題解決力向上のための総合授業



項目	達成率
朝読書	95%
朝読書	90%
朝読書	85%
朝読書	80%
朝読書	75%
朝読書	70%
朝読書	65%
朝読書	60%
朝読書	55%
朝読書	50%
朝読書	45%
朝読書	40%
朝読書	35%
朝読書	30%
朝読書	25%
朝読書	20%
朝読書	15%
朝読書	10%
朝読書	5%
朝読書	0%

取組みを通しての子どもの変容

- ・主体的に取組む生徒が増えた。
- ・茨木っ子アンケートの数値の向上が見られた。

つきたい力

- ・課題解決に向けて、教科書や資料を自ら読もうとする力
- ・課題解決を目指して、粘り強く何度も教科書や資料を読もうとする力

取組みの概要・ポイント

- ・国語科を中心に、つきたい力を意識した魅力的な言語活動の設定。
- ・モジュール学習での語彙学習、MIMの取組み。

玉櫛小学校の取組み

◎単元計画の共有

どのように学習を進めるのか、見通しをもつために単元計画を子どもたちと共有する。単元計画の中には、『つきたい力』『そのために』『言語活動』の三つを入れ、単元のゴールを明確にしている。

◎モデルの提示・分析

子どもたちがより具体的にゴールをイメージするために、言語活動モデルの提示・分析を行っている。モデルは、前学期で取り組んだ教材や下の学年で学習した教材などを使って作成している。

◎全文シート、全文掲示の活用

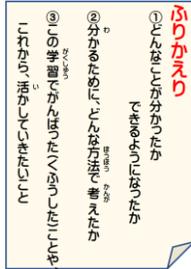
教材文を一枚のシートにまとめることで、場面ごとに教材文を読むのではなく、文章全体から考えの形成を図ることができるようになる。また、複数の場面を結び付けて考える子どもの姿を見ることができる。

◎ふりかえり

単元の最後に学びを自分のものとして、次につなげられるように三つの視点で単元のふりかえりを行っている。

◎言葉タイム(週1回)の実施

週1回、月曜日に全学年が語彙学習やMIM学習に取り組む。語彙学習では、新聞コラムを読んだり、言葉集めをしたりして、語彙を増やすことを意識している。MIM学習では、ミニプリントやMIMトライアルを活用して取り組んでいる。



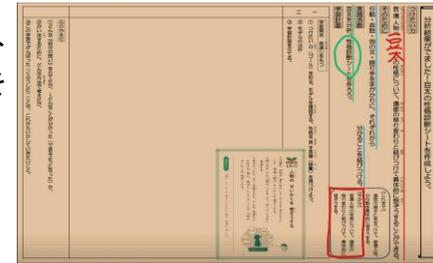
具体的な言語活動の取組み

三年生『モチモチの木』～想像したことを伝え合おう～

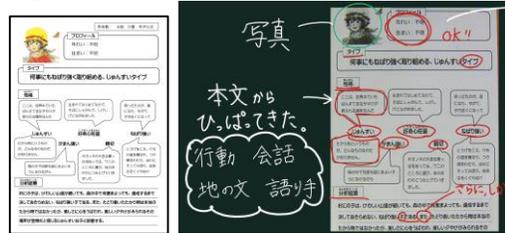
言語活動:「分析結果が出ました！豆太の性格診断シートを作成しよう。」

①単元計画

『つきたい力』『そのために』『言語活動』を色分けして確認。ゴールに向かうまでの学習計画を子どもたちと一緒に作成していく。



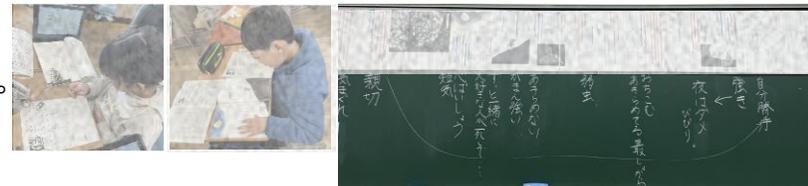
②モデル



前学期に学習した教材を使ってモデルを作成することで、内容理解に時間をかける必要がなくなり、言語活動をよりくわしく分析することができる。

③全文掲示

全文を掲示することで、複数の場面を結び付けて考えることができる。また、教科書に戻って、何度も本文を読み返していく。



④ふりかえり

自分の学びを自分の言葉で記録する。

取組みを通しての子どもの変容

- ・全国学力学習状況調査(国語)結果の向上。
- ・「この勉強では、どんな言語活動をするの?」と、どのような言語活動で学ぶのか、今回のつきたい力は何か、単元開きを楽しみにしている様子が見られるようになった。
- ・先生の発問から考え始めるのではなく、言語活動に向かっていくために自ら学びに向かう姿が見られた。

つきたい力

- ①情報を正しく読み解く力
- ②読み解いた情報を表現する力

取組みの概要・ポイント

- ・教職員のリーディングスキルの知識向上
- ・国語科から他教科への広がり

つきたい力

読みの分類

≠

RS

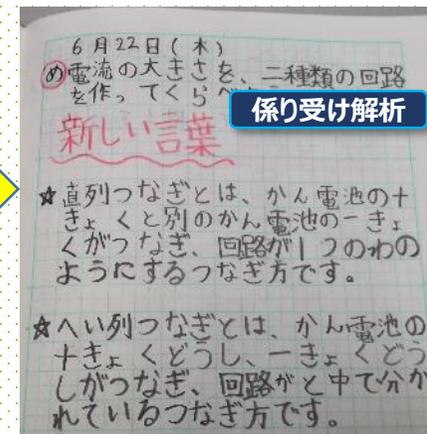
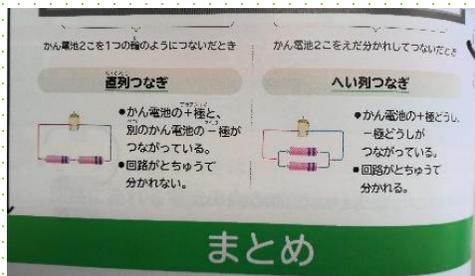
アセスメント

何が読めていて、何が読めていないか

学習指導要領

具体的取組のポイント（例）

授業中の新出語に注目

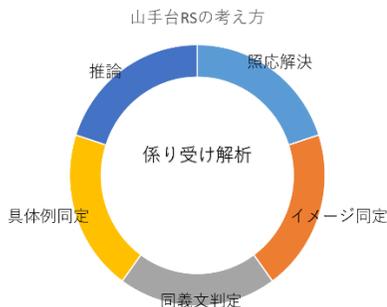


山手台の変遷

RSの視点

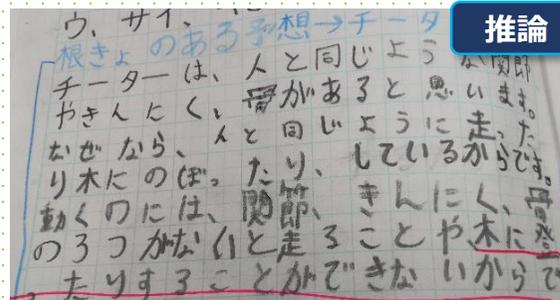
授業の見方・考え方

年度	取組み	視点	具体的取組
20	研究授業 教職員の小集団による学び 合いとRSTの実施	係り受け解析 DEP	「～は、～です。」で表現できる。 こそあど言葉を使って、読んだり、文章表現したりできる。
21	研究授業 教職員の小集団による学び 合いとRSTの実施 犬塚美輪先生のお話	照応解決 ANA	DEP、REP、INSTの視点で書いた文章を、他者と検討する。
22	RST通信の発行	同義文判定 PARA	既習事項を使って考える。前、こうだったから今回も
23	新井紀子先生の講話から、 複数教科の授業研究を行う	推論 INF	図表グラフからわかることを「何が、どれだけ、どうなる」を入れて書くことができる。
24	次年度に向けてRSを継承し 新たな研究につなげる	イメージ 同定 REP	「～は、～です。」で表現できる。定義にあうものを選ぶことができる。



※教材研究の時に意識すること。
授業中、子どもに意識させること。
※授業の中でつける力ではない。

既習事項をもとに予想を立てる



◎苦手な子には
・「言わせる」→「書かせる」
今しゃべったこと、そのまま書いてごらん。
・「ほらできたやん」とほめる。
表現することに自信を持たせる。

取組みを通しての教職員の変容

授業をする際の視点が増え、子どもの読み解く場面をイメージした上で授業づくりを行うようになってきた。
職員間で議論する柱ができたことから、高め合い続ける教職員集団の育成と、同僚性の向上に期待し、学び続ける子どもの育成につないでいきたい。

つきたい力

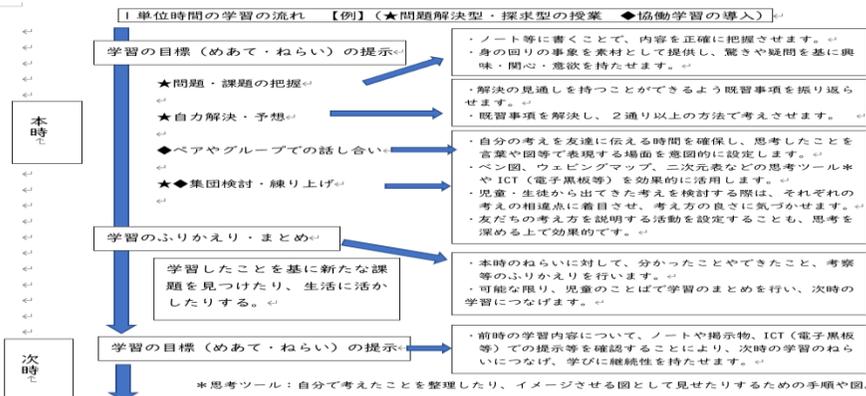
- ・全教科における読解力
- ・確かな言語力
- ・児童同士の交流を深めて、学力及び非認知能力

取組みの概要・ポイント

- ・教科書を読み取る授業づくり
- ・MIMの取組み
- ・朝の学習での視写・読みとり学習の取組み

東奈良小学校の取組み (RS・MIM)

◆ 東奈良小学校での授業での取組み



◆ MIMの取組み

MIMとは子どもの多様なニーズに寄り添うためにアセスメントをとり、個に応じた楽しい学びを届けていく枠組み

◆ リーディングスキル (RS) の取組み

リーディングスキル (RS) とは文章を理解しながら読めているかという基礎的・汎用的読解力のこと

《内容》

- ①主語と述語をつながられる？ 係り受け解析
- ②「それ」が指すものがわかる？ 照応解決
- ③2つの文が同じ意味かわかる？ 同義文判定
- ④常識を使って判断できる？ 推論
- ⑤図の意味を説明できる？ イメージ同定
- ⑥言葉や算数用語の定義がわかる？ 具体例同定 (辞書) (理数)



東奈良小学校の全学年・各学年での具体的な取組み

◆ ならっこ学習タイム

⇒水曜日 (隔週) で朝の時間 (15分間) を使った全学年実施の取組み

- 1・2年生：ひらがなの定着、運筆練習を目指した取組み
- 3・4年生：簡単な文章の読み取る読解力向上の取組み
 - ・速く正確にかくことができる視写の取組み
- 5・6年生：グラフや表などから正しく読み取る取組み
 - ・速く正確にたくさんの文章を書くことができる取組み



◆ ならっこタイム

全学年に向けた作文の発表をする取組み
給食の時間に作文を代表2~4人が読むという活動



◆ 一斉読書

毎週月曜日15分間、全校で読書活動の充実をはかるときの活動

◆ 全教科通した授業の中での取組み

- 1年生
 - ・言葉のまとまりを意識する。
 - ・正しい文字表記の獲得
- 2年生
 - ・反復練習で正しい文字表記の定着をはかる。
 - ・ペアや班活動を多く設定し、考えや気持ちの言語化を促す。
- 3年生
 - ・新出の学習用語を自身の言葉に置き換える。
 - ・単元に関する関連本を並行読書し、知識量を高める。
- 4年生
 - ・国語のわからない言葉を辞書で調べて語彙力を高める。
 - そして、めあてを聴写して書く。
- 5年生
 - ・新しく出てくる語彙の意味調べを行い自分の知っている語彙も調べ語彙力を高める。
- 6年生
 - ・めあてをもとに教科書を読み、書いていることからどんなことが言えるかを自分のことばで表現させる。



令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果から

- ・エンパワーメント層の割合がRSの取組みを始めた5年前から減少傾向にある。また、今年度は学力高位層が増加しと学力低位層が減少している。
- ・平均正答率はこの4年間全国平均を大きく上回っている。また、今年度は記述式の解答が大阪府平均より国語・算数ともに10p以上高い結果になっている。

つきたい力

取組みの概要・ポイント

- 自分の考えを持ち、表現する力
- 他者の考えを聴き、自分の考えを豊かにする力

- ①授業研究 ②基礎学力の育成 ③外国にルーツのある児童の学力保障
- ④生活習慣の確立 ⑤豊川(地域)ネットワーク

授業研究の取組み

基礎学力の育成の取組み

聴き合い、学び合うために

○聴き合う関係をつくるための場づく

- ・「静かな環境」をつくる
先生の声のトーンをさげる。
一人ひとりの児童の意見をしっかり聴く
- ・形態を使い分ける
お互いの顔が見えやすい席の配置。
支えやすいペア(低学年)。
深い学びにもっていける3・4人のグループ(高学年)。



○子ども主体をつくる

- ・指示は短く明確に(必要最小限)
教師が話し過ぎると学びが途切れる。
- ・教師がモデルになり、聴くことに力を注ぐ。
子ども同士が聴き合える姿勢をつくる。(リボイス)
(よりよい聴きてはよりよい表現者を育てる)
- ・授業でここを考えさせたい、立ち止まりたいときは、一度グループに戻す。

○つながりをつくる

- ・子どもたちを観察
気になる子には1分以内に声をかける。(わからない子には「聞いてごらん」)
- ・グループを観察
グループ内の声かけ・事実をよく聴き、うまくつながっていないグループを教材、教具、それぞれに共通した話題提示をするなどしてグループをつなぐ。
- ・席配置などで、グループがつながりやすい工夫をする。

○理想的な授業の流れ

- ペアで安心して授業に入る
⇒教科書レベルの基本を理解する
- 『ジャンプのある課題』(難しい)
- 他者と協同して困難に立ち向かい、深い学びへ。
⇒子どもは集中し、主体的に学ぶ



ショートストーリー



学力保障のために

○漢字検定

- ・漢字の定着をはかるために、学年(個人)に応じた漢字検定を行う

○こおりやにゃんタイム

- ・縦割りグループをつくり、交流し、学習する時間をもつ。
それにより、低学年の学力向上と、高学年の自尊心の向上をめざす

○ショートストーリー(毎週火曜日朝)

- ・短い内容の物語文や説明文と問題。
- ・心を豊かにしたり、文章から要点を整理したりする力をつける。
また、条件付きの問題に取り組むことで読解力をつける。

○自主学习

- ・自発的な学びをおこない、自他ともに認めあうことで、学習意欲、学力の向上をはかる。

○放課後学習

- ☆家庭学習がにがてな児童や授業時間での学力定着にサポートが必要な児童に対してのサポートをおこなう。

- ・なかよし教室 支援学級在籍の児童を対象におこなう。
- ・パンダ学習 パンダ教室(日本語指導教室)在籍の児童を対象に行
- ・学びルーム 高学年対象におこなう。

○ぬくもり作文(作文教育)

- ・「書きたい」と思える作文教育を通じて、書く力の向上や、集団づくりへとつなげる。

取組みを通しての子どもの変容

- 授業研究の取組みより→聴き合う活動(ペア・グループ)になったときに、安心して聴き合える姿が多くみられるようになった。ジャンプの課題に意欲的に取り組む聴き合い、学び合いながら、学び深められる姿がみられた。

- 基礎学力の育成の取組みより→ショートストーリーの短い文章条件付きの問題に取り組むことで、文章を読むことを楽しむ姿が多くみられるようになってい。ぬくもり作文に取り組むことで、好きなことを好きなだけ書き、認められることで、意欲を向上させて取り組む姿がみられている。